

平成29年度第3回花巻市行政評価委員会（暮らし部会）会議録

1 開催日時

平成29年6月29日（木） 午前10時00分～正午

2 開催場所

花巻市役所3階 小会議室

3 出席者

(1) 委員 4名

鈴木部会長、高橋委員、吉田委員、福盛田委員（※木村委員は欠席）

(2) 説明者（施策主管課） 2名

伊藤市民生活総合相談センター所長、筑後建築住宅課長補佐

(3) 事務局（施策及び事務事業担当課） 2名

秘書政策課：赤坂企画調整係長

財政課：八重樫課長補佐兼経営財務係長

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「防犯活動の推進」及び「交通安全の推進」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

◆施策「防犯活動の推進」

鈴木委員：市内の犯罪件数は分かるか？

伊藤所長：H24が463件、H27が320件、H28が276件。年々減っており、治安的には良いが、軽犯罪が若干増えている。

高橋委員：犯罪件数だが、「多い」「少ない」の判断をする基準があるのか？また、「侵入窃盗は減っているが被害が多い」とはどういう意味か？

伊藤所長：基準があるかどうかは調べていない。「侵入窃盗は減っているが被害が多い」とは、施錠をしっかりと行うことで防げる余地がまだあるということを言いたいもの。「鍵かけ」を重点目標として取り組んでいる。なお、鍵かけは住宅だけでなく自転車も対象。

吉田委員：防犯隊、防犯連絡委員は行政区から選ばれているものか？

伊藤所長：防犯隊員は選ばれているというよりは手上げしていただいている。連絡委員は、自宅等に看板を掲げていただいている方々。

吉田委員：防犯隊、防犯連絡委員は連携を取って活動しているのか？

伊藤所長：連携した活動を行っている例もあると思うが、防犯連絡委員や子ども110番の家などはこれまで形骸化してきた面もあったことから、研修会等を実施するなどして協力していただける体制づくりをする必要があると考えている。

吉田委員：防犯隊の活動内容がよく分からない。市の業務と防犯協会の業務のすみ分けもはっきりしていない気がする。

伊藤所長：市で積極的に関わってこなかった（任せきり）影響が、吉田委員が指摘されたような形で見えてきたのだと思っている。

福盛田委員：子ども110番の家、駆け込み救助を求めた事例はあるのか？

伊藤所長：ないです。

福盛田委員：PTA懇談会で話題になることもあるし、看板を見たりもするが、実際活用されていないように感じる。駆け込み救助等で活用する場面はない方がよいと思うが。

福盛田委員：スクールガードは高齢化のためか人数が減ってきている。

高橋委員：防犯隊と地区コミュニティとの繋がりによる活動等、もう少しあってもいいように感じる。

伊藤所長：本年度、鍵かけ徹底のチラシを配布（広報と一緒に）。少しずつ活動を浸透させる手立てを考えていきたい。

吉田委員：空き家の件数は？

筑後補佐：現在把握しているものが959件。ただし、空き家だと把握していても実際は家主が1か月に1度管理に来るなどしているケースもあり、正確な数値ではない。

吉田委員：959件というのは多い方？少ない方？

筑後補佐：全国平均で13.5%が空き家だと言われている。花巻市も全国平均と同程度の空き家率である。959件中約270件は良好管理、約100件は管理状態があまり良くないもの。この100件から更に絞り込んだものが特定空家等（周辺に悪影響を及ぼすレベルの空き家）と判断される。

福盛田委員：空き家だと判断するにあたっては、所有者に聞き取り等を行うのか？見た目だけで判断するのか？基準などはあるのか？

筑後補佐：まずは各地区の区長より空き家の情報をもらった後、職員による現地調査を行って判断している（チェック項目を設けて現地調査実施）。管理に

不備がある場合は所有者への通知を行うなどして、適正管理をお願いしている。

◆施策「交通安全の推進」

高橋委員：高齢者の事故が多いとの記述があるが、どのような場面での事故が多いのか？

伊藤所長：被害者（横断中）、加害者（自動車運転）のどちらも。なお、交通事故に高齢者が関わっている割合だが、H27が39.6%、H28が43.6%（どちらの年も1～12月）。H28はここ10年で一番高い数値となっている。

吉田委員：老人クラブなどとも連携した交通安全普及を進めては？

伊藤所長：研修会等を各地区で行っており、老人クラブとタイアップしている例もある。

高橋委員：交通指導員になるのに資格は必要なのか？

伊藤所長：資格は不要。なお、現在交通指導員の定員を89名としているが、これは合併前の旧市町の交通指導員数を足しただけのもので、定員の基準というものはない。更に充実した活動をするとなると、この人数では足りないと思う。

福盛田委員：交通指導員に対し、活動回数の指示等は行っている？

伊藤所長：行っていない。仕事をしながら交通指導に携わる方等、個々の事情があるので。1人平均80～90回の活動だと思う。

高橋委員：交通指導員を公募することはできるのか？

伊藤所長：これまでは、交通指導員の声かけによる後継者や、やってみたいという方をお願いしている。公募となると課題もあると思うが考える余地はあるかもしれない。

吉田委員：交通指導員の地域での偏りはないのか？

伊藤所長：ないです。

伊藤所長：農作業する方々やウォーキングしている方々に交通安全啓発のベストを着てもらっただけでも、交通安全への意識啓発になるのではとの意見もいただいている。

福盛田委員：交通安全コンクール「チャレンジ100」のほかに別事業は何かあるのか？

伊藤所長：昔は行政区単位で参加する飲酒運転防止コンクールを行っていたが、誰かが違反すると、地域内で犯人探しが始まるなどプライバシーの侵害が起こることもあり、現在は行っていない。

鈴木委員：交通安全教室とはどのような内容のものか？

伊藤所長：年齢にあわせた教材（着ぐるみ、ミニ信号機等）を使って行っている。
また、自転車の乗り方教室なども。

福盛田委員：交通安全推進モデル校というのがあったと思うが、今はないのか？

伊藤所長：自転車安全利用モデル校として3校（西南中、湯口中、花北青雲高校）を指定している。また、交通安全推進モデル地区の指定や、シートベルト着用・早め点灯モデル事業所の指定などを行っている。

（2）委員会の評価結果集約【施策評価検証シート】

◆施策「防犯活動の推進」

◇①施策を構成する事務事業の評価・検証について

→的確であるが、身近に出来る対策については、もう少し具体的な内容がほしい。

◇②施策の成果指標及び達成状況の分析について

→的確である。

◇③施策の総合的な評価について

→課題で取り上げられている「防犯隊隊員の高齢化や後継者不足」への対策等についても記載するべき。

◇④シート記載内容について

→問題なし。

◆施策「交通安全の推進」

◇①施策を構成する事務事業の評価・検証について

→的確である。

◇②施策の成果指標及び達成状況の分析について

→交通安全コンクール「チャレンジ100」の参加者数が目標に達しなかった要因として、「事業に対するマンネリ感」と分析しているが、マンネリ感と判断した根拠も記載してあれば分かりやすかったと思う。

◇③施策の総合的な評価について

→課題で取り上げられている「交通指導員の不足」に対する対策等についても記載するべき。また、交通指導員の現在の定数89名が適正であるかの評価も必要ではないか。

◇④シート記載内容について

→問題なし。

◆その他

事務事業評価シート「防犯推進事業」、「交通安全推進事業」の事業手法の詳細欄にフローチャートがあるが、矢印の意味（「指導」や「相互連携」など）を記載しないと
かえって分かり難い。